

建築士試験 指定科目一覧表

（環境都市工学部 建築学科 2017～2021年度入学生用）

建築学科で以下に記載されている所定科目を、それぞれの条件にしたがって修得し、卒業すれば、卒業後すぐに建築士試験の受験が可能となります。試験受験を考えている方は、科目表を参照し、計画的に履修してください。

なお、卒業後に建築士試験を受験する際は、**所定の「単位証明書・卒業証明書」が必要となります。本証明書の作成には1週間程度の期間が必要ですので注意してください**（証明書自動発行機で発行できる成績証明書ではありません）。

法定科目区分	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	条件（一級）	条件（二級・木造）
①建築設計製図	建築設計製図Ⅰ	1	必修	2	①の区分のうち、7単位以上修得が必要	①の区分のうち、5単位以上修得が必要
	建築図法	1	必修	2		
	建築CAD演習Ⅰ	1	選択	2		
	建築設計製図Ⅱ	2	必修	3		
	建築設計製図Ⅲ	2	必修	3		
	建築設計製図Ⅳ	3	選択	3		
	建築設計製図Ⅴ	3	選択	3		
	建築設計製図Ⅵ	4	選択	3		
②建築計画	西洋建築史	1	選択	2	②の区分のうち、7単位以上修得が必要	②～④の区分のうち、7単位以上修得が必要
	日本建築史	2	必修	2		
	建築計画Ⅰ	2	必修	2		
	建築計画Ⅱ	2	必修	2		
	近代建築史	2	選択	2		
	住居計画	2	選択	2		
	都市と住宅の歴史	3	必修	2		
	建築計画Ⅲ	3	選択	2		
	建築史演習	3	選択	4		
③建築環境工学	建築環境工学概論	1	必修	2	③の区分のうち、2単位以上修得が必要	②～④の区分のうち、7単位以上修得が必要
	室内気候学	2	必修	2		
	建築光環境学	2	必修	2		
	建築音響学	2	必修	2		
	建築環境工学演習Ⅰ	3	選択	4		
	建築環境工学演習Ⅱ	3	選択	4		
④建築設備	建築設備工学Ⅰ	3	選択	2	④の区分のうち、2単位以上修得することが必要	②～④の区分のうち、7単位以上修得が必要
	建築設備工学Ⅱ	3	選択	2		

法定科目区分	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	条件(一級)	条件(二級・木造)
⑤構造力学	建築構造力学基礎	1	必修	2	⑤の区分のうち、4単位以上修得が必要	⑤～⑦の区分のうち、6単位以上修得が必要
	建築静定構造力学	1	必修	2		
	建築不静定構造力学	2	必修	2		
	建築構造解析学	2	選択	2		
	建築基礎工学	3	選択	2		
	建築振動学	3	選択	2		
⑥建築一般構造	建築一般構造	1	必修	2	⑥の区分のうち、3単位以上修得が必要	
	鉄筋コンクリート構造学Ⅰ	2	必修	2		
	鉄骨構造学Ⅰ	2	必修	2		
	鉄筋コンクリート構造学Ⅱ	3	選択	2		
	鉄骨構造学Ⅱ	3	選択	2		
	鉄筋コンクリート構造演習	3	選択	4		
	鉄骨構造演習	3	選択	4		
	木造構造学	3	選択	2		
	木造構造実習	3	選択	2		
⑦建築材料	建築構造材料学	2	必修	2	⑦の区分のうち、2単位以上修得が必要	
	建築仕上材料学	2	選択	2		
	構造・材料試験演習	3	選択	4		
⑧建築生産	建築生産	3	選択	2	⑧の区分のうち、2単位以上修得が必要	⑧の区分のうち、1単位以上修得が必要
	建築施工法	3	選択	2		
⑨建築法規	建築法規	3	選択	2	⑨の区分のうち、1単位以上修得が必要	⑨の区分のうち、1単位以上修得が必要
①～⑨の合計					30単位以上	20単位以上
⑩その他	図学	1	必修	2	適宜	適宜
	都市環境学	2	必修	2		
	建築CAD演習Ⅱ	2	選択	2		
	建築数値計算基礎	2	選択	2		
	都市計画Ⅰ	3	必修	2		
	都市計画Ⅱ	3	選択	2		
	ランドスケープデザイン	3	選択	2		
	都市・地域調査実習	3	選択	3		
	建築シミュレーション演習	3	選択	2		
	建築保存再生	3	選択	2		
	測量学実習	4	選択	2		
一級建築士試験においては、①～⑩の合計単位数60単位以上修得が必要 二級・木造建築士試験においては、①～⑩の合計単位数40単位以上修得が必要						